

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		12,115	t-CO ₂
① （温 を 二 室 除 く 化 果 炭 ガ ス 換 算 ） 排 出 量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		12,115

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 9 年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総 排 出 量	12,115	t-CO ₂	11,752	t-CO ₂	3.0

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 9 年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排 出 量	0.1336	t- CO ₂ / m ²	0.1296	t- CO ₂ / m ²	3.0

（2）目標設定の考え方

温室効果ガス排出量を毎年 1%ずつ削減し、3年間で計 3%削減を目指します。
--

- 備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考 3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の推進/照明	従業員エリアも含め、館内で使用する照明機器のLED化を進め、消費電力の削減に貢献します。	2027年度末までに、すべての照明器具のLED化する。
一般管理/エネルギー使用量等の把握及び管理	使用設備の点検・修繕履歴をグループウェアと紐づけて管理することで、適切な機器更新時期を把握する。	2026年度末までに、導入及び運用を開始する。
一般管理/管理体制の整備	各種認証制度等を活用し、定期的に外部団体による確認及び評価制度を導入する。	2026年度末までに、全ホテル導入する。
一般管理/エネルギー使用量等の把握及び管理	エネルギー使用量の把握・計測・記録・分析	

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ペーパーレス化や事務用品のリユースなどによる廃棄物の排出抑制。・「環境物品等の調達に関する基本方針」(グリーン購入法)に準じた商品の購入。・従業員の通勤における公共交通機関の利用促進。・従業員等への定期的な環境教育の実施。・客室アメニティ類のサステナブル認証製品の優先使用。 |
|--|

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・定時退社に努める。・社用車使用者へのエコドライブ推進 |
|--|